

私は教員生活を高校の日本史教員からスタートしました。

日本史の学習コンテンツという観点で考えると、鎌倉以降のコンテンツは充実しています。NHKの映像コンテンツ「大河ドラマ」からして大半が源平合戦以降のものです。

源氏物語などの文学はあるものの、具体的な平安までの学習用資料やコンテンツは不足しがちです。それまで古事記や八百万など平安以前も含めた学習アニメやコンテンツを作成してきました。もう少し具体的に使える平安時代のアニメやコンテンツが必要だという観点から平安時代のアニメやコンテンツを制作し学習に活用しました。

丁度戸沢村に努めているとき、研修予算をつけていただき首都圏で資料集めをしました。国立博物館や歴史博物館に行き、許可をいただき資料やデータを収集して平安京を再現しました。寝殿造りや十二単、狩衣といった衣食住も3Dで再現しました。

これはデータベースの形で学習の時に個人がパソコンで検索して活用できるようにしています。そしてそのデータを活用して古典 今昔物語の話を統合して

絵師、という平安時代の3Dアニメを制作して学習の活用しました。

このアニメやコンテンツは鮭川中の社会科の公開研究会時に活用して指導案を残しています。この時は課題解決学習をジグソー法と言われたりする2段階グループ学習で行いました。

1度目のグループ学習でその分野のエキスパートを育て、2回目のグループ学習で各エキスパートが分散して課題解決をする形式です。2回

平安時代の教材とジグソー法活用例

研修で国立博物館、歴史博物館で資料やデータ収集をする



- ・平安京の3D再現
- ・十二単などの衣食住再現
- ・今昔物語の3Dアニメ化

ジグソー法

第一段階 それぞれの分野のプロ(専門家)を育成する



第二段階 それぞれのプロがA～Dの課題に集まり課題を解決する



第1学年A組 社会科 学習指導案
生徒数 男子14名、女子7名、計21名
指導者 義高 亙
場所 1A教室

1. 単元名 平安末期の動乱から武士の支配へ

2. 目標

- (1) 時代の変化について関心を高め、意欲的に追求させる。
- (2) この時代の特色を考察し思考させる。
- (3) 中世の歴史や文化に関する資料を収集して適切にまとめる。
- (4) この時代の歴史や文化について理解し、その問題を身に付けさせる。

【関心・意欲・態度】
【思考・判断・表現】
【資料活用・技能】
【知識・理解】

3. 指導にあたって

- (1) 単元について
本単元では、平安時代後期から武士の支配に至るまでを教科書や図説、用いた教材や資料から考察させたい。歴史とは先週に立った重要人物の事件だけではない。あらゆる人が生活した事象の連続性や流れである。歴史的視野の重要語句や史料として身に付けるだけでなく、その時代に生きた人々の生活や生活感を調べ、体感できる学びにつなげたい。そして時代の流れを考察する具体的な課題を持たせそのことを説明できる時代感覚を、歴史的知識・理解として身に付けさせたい。中世を学習していくことでその当時の様子を思考させ、この時代以降の歴史的背景に対して興味関心を高めさせたい。

- (2) 指導について
高度な生徒が多く基本的なルールは身に付いている。また、4月当初は、開始についても意識が足りなかったが、最近では女子の半から半手前まで見られるようになった。しかし、資料や地図に付したの観察力が不足している生徒や、読み取ったことを自分の言葉で言い換えて自分からかややく表現することを苦手とする生徒が多く見られ、課題となっている。生徒は歴史的視野については関心が高く、意欲的に学ぼうとする態度の高く、生徒が多い。毎時間取り入れている四人の役割学習はよく活動しているが、慣れてくると資料の部分引用などになりやすく、思考の深みに欠ける時がある。基礎・基本的な内容は理解できるが発展的な課題を苦手とする生徒に対しては、他の生徒からの説明をヒントとして自分の考えをまとめようとするようにさせたい。自分の意見を明確にできることにも、態度がよい生徒が助言を求めやすい雰囲気をつくりたい。個別に出した課題を比較させたり、よく考察させたりしてから次に進ませたい。

4. 研究テーマとの関連

- (1) 「1」から「1」へという観点から、その時代の人の様子について「2」の時代の人は？と関心を持って調べられる教材を求めた学習指導案を用意したい。また研究テーマの「2」深い学びを促すための工夫として共に調べた事からまとめができるよう努めたい。四人の学習組に問いかけの課題を提示させ、そこから出てきた結論を比較したりして、授業の展開に活かしていく。そのことで自分たちの出した結論の結果を学び合い、考え合う授業をつくらせていく。また自分達の形で出した結論や結論をもとに授業を進めていくことで、主体的に学ぶ態度を向上させていく。これは、学び合いによる深い学習活動ができるようにするためである。そこで、基礎・基本的な内容を苦手とする生徒にも「理解できた！」という満足感・達成感を味わわせることもねらいとしている。

に分けて グループを解散統合しながら課題解決を行っています。この平安コンテンツはこの時にも活用しています。

平安時代の人の生活、特に衣食住を丹念に調べたつもりです。自主製作教材の良いところは自分が使うつもりで必要な機能を盛り込んでいるので、使いやすい授業の組み立てで使えることにあります。

鮭川中の生徒の意欲や積極性に支えられ、良い調べ学習ができたと思います。

END

5 指導計画および評価計画（6時間限、本時は1時間目）									
時間	指導内容	評価の観点							
		知・理解	関・関与	意・意欲	情・態度	学・学習	研・探究	創・創造	本時・目標
1	平安時代の文化と人々の様子	○							
2	平安末期の源氏と武士の登場		○						
3	源氏の興起と鎌倉幕府の成立	○							
4	東アジアの影響からの元寇					○			
5	支配の揺らぎから南北朝時代へ			○					
6	鎌倉時代の文化と人々の様子	○							
6 本時の指導									
(1) 題材	平安時代の文化と人々の様子								
(2) 目標	・平安時代の人々について関心を高め、意欲的に追求することができる。【関心・意欲・態度】 ・平安時代の人々に関する資料を活用して適切にまとめることができる。【資料活用・探究】								
(3) 指導過程									
8時限 (10分)	学習活動	主な発問（○）と指示（◇）				指導上の留意点（・）			
導入 (10分)	1 平安時代について既習事項をまとめる。	○平安時代はどのような時代だったのだろうか。				【評価基準⑧】と評価方法①、2 ・既習事項である歴史の通年を見えているか。【得意・探究】			
	2 課題をつかむ	平安時代の生活の様子を調べてみよう							
展開 (30分)	3 疑問に素直に疑問について考え調べてみる。	○平安時代に暮らした人々 はどのような生活をして いたのだろうか。 ○各組で課題を選んでみよう。 《平安時代の生活について 衣食住の項目を各組で 調べて行く》 ○平安時代の生活の様子から 何がわかるだろうか。				・自分たちの組で疑問の関心が高いことを選んで調べてみる。 ・組ごとに課題解決に必要な資料を整理させ調べさせる。 ⑧課題に対して適切な資料や教材を選択してまとめているか。【各組の作業】			
	4 疑問に調べた結果を受けて課題探究を深める。	○調べた結果を受けてさらに課題を考えたみよう。				⑧各組の発表を受けて適宜しているか。【得意・探究】			
過渡 (10分)	5 発表した内容について考えまとめる。	○各組の発表をもとに自分達でまとめてみよう。				・本時の調べた内容をもとにまとめるまでに行う。			